

授業の様子から



【1年】図工
自画像を水彩絵の具で描いています。顔の各部位の描き方を全員で確認しながら、ていねいに描いています。みんなとてもそっくりです。



【2年】体育
晴天の下、鉄棒を使った運動遊びをしています。「つばめ」の体勢から体を曲げて、体でぶら下がる「ふとんほし」の技に挑戦です。



【3年】社会
地図記号を使ったり、色分けしたりして作った学校周辺の地図を見て 分かったことや気付いたことを発表しています。



【4年】算数
割り算の商が百の位に立たないとき、どうしたらよいのかを考えています。単に答えを求めるのではなく、考え方を説明するというのは難しいです。



【5年】図工
体の動きを切り取って粘土で表現するために、タブレットを活用して、体育館で様々な体の動きを撮影しています。



【6年】体育
マラソン大会の練習です。誰一人手を抜くことなく、必死になって走っています。さすが6年生、気合が違います。



栄養バランスがよく、見た目もきれいな日本のお弁当は、近年、世界でも高く評価され、日本風のお弁当を作るのが流行っているそうです。しかし、お弁当の魅力はそれだけではなく、お弁当には、家族の「思い」が詰まっています。大人になり、私が何度か作ったお弁当は、不思議と母親がかつて作ってくれたものに似ていました。このように親から注がれた愛情は、このように思っています。

今週月曜日は、お弁当の日でした。朝、お弁当を抱えてやってくる子どもたちに、「今日はお弁当だね。」と言うと、どの子も満面の笑みを返してくれました。給食もよいですが、やはり、お家の人が作ってくれるお弁当は格別なようです。ある児童は、これまではキャラ弁だったのが、今日は焼き肉弁当だ教えてくれ、焼き肉のタレだけでご飯を何杯でも食べられると、少し興奮気味に話してくれました。また、ある児童は、間に塩昆布を挟んだ二層のご飯を食べるのが楽しみだと話してくれました。子どもたちのお弁当を期待する姿から、お家の人の愛情がうかがえます。

小さい頃の私にとっても、お弁当を開けるときのワクワク感は、何ものにも代え難いものでした。我が家は、仕事で母親の帰りが遅くなるのが度々だったため、母親が準備してくれた食材で、弟と夕食をよく作りました。弟と二人だけの夕食は、何となく寂しかった記憶があります。

それだけに、お弁当の日は朝からそわそわして、昼になるのが待ち遠しいものでした。当時はキャラ弁のような手の込んだものはありませんが、定番の卵焼きやウインナーでさえ、「自分のために作られた」という特別感がありました。お弁当を通して母親と向き合っている感覚だったのかもしれません。

つばき

お弁当の日の思い出

